



お正月の意味

長い二学期も今日で終わり、明日から冬休みが始まります。そして、あと一週間で平成二十四年も終わり、お正月がやってきます。お正月というのは新たな一年が始まる出発点であり、今年一年をリセットするためにあります。そのため、十二月は過ぎ去ったこの一年の「精算」をすべき月であり、来る新年の「準備」の月であるといえます。「精算」は貸し借りの結末をつけるという意味です。昔はものを買ってもその場でお金を払うのではなく、「つけ」即ちお店で借りて買っていました。その為、商人は月末になると代金を集めに回っていました。とりわけ、年末はその年の「つけ」を全て回収しなければなりません。借りていた方は返さなければならぬ大事な月だったのです。人々は年末に「精算」を終え、来年の「準備」をしました。

新年の祈り

日本に稲作が伝わってこの方、秋に収穫したお米の一部を種籾たねもみにするためとっておきました。春に田植えをするためです。通常、一粒の種籾たねもみからその何百倍もの収穫をすることができます。しかし、心配なことがあります。農業は自然相手ですから台風や洪水が起こると収穫することができなくなります。水不足になやまされることもあります。さらに、害虫が発生して被害を受けることもあります。そのため、人々は「五穀豊穡ごこくほうじょう」を願ってお祈りをするわけです。「五穀豊穡ごこくほうじょう」とは米・麦・粟(あわ)・黍(きび)・豆などの穀物が豊かに実ることをいいます。さらに、「家内安全」や「天下泰平」を願ってきました。「天下泰平」とは世の中が平和でよく治まっていることです。自分や家族が健康で世の中が落ち着いていて、大きな自然災害が無かったなら沢山の穀物が実り、安心して十分食えることができたからです。

しかし、お祈りする以上、自分自身も行いを正さねばなりません。自分自身は好き勝手な生活をして、神様にお願かないばかりしても叶えてはもらえません。自分自身や身の回りをキレイにしておかなければなりません。

大掃除

私たちは毎日三度食事をしますが、食べたら当然排泄はいせつをします。また、人間の身体からは「垢あか」が出てきますし、生活しているとゴミや埃が出てきます。この様に人間が生きると必ず汚れが生じてきます。

また、物理的な汚れではありませんが、生活していると家族、親戚、友人、近隣住民などのあいだでトラブルが起こったりします。つまり、生きてると当たり前のように心身共にゴミが出てくるわけです。これらをそのまま放っておくと汚れがひろがり、最悪の場合は死に至ることがあります。だからこそ、昔の人たちは年末になると大掃除して、一年の汚れを祓はらえ清めたのです。

平成二十四年はまもなく終わります。新年を迎えるにあたり、身辺整理をしてください。今年一年間を振り返り、来年一年間の抱負ほうふや希望を語り、平成二十五年はこれをやるという目標を掲げて努力してください。